

ERNESTO KÖHLER : 35 EXERCISES for Flute op.33 Book I No.1



岡村考二
Koji Okamura

E.ケーラーのエチュードOp.33は3巻からなり、美しいメロディーの中に、演奏テクニックを身につけるのに必要な技術を要求しております。このエチュードを丁寧に練習していけば、必ず高度の演奏技術が身につくはずですよ。Book1の第1巻にはこのエチュードのポリシーが集約されているように思います。

まず曲想表示について考えてみましょう。

Allegro moderato。「Allegroは速くて、moderatoは中くらいの速さだから、うーん？その間の適度な速さかな」と考えるのは、ちょっと早い！ Allegroは「速く」だけではなく、「活発で明るく、快活であること」、moderatoは「中くらいの速さ」だけではなく、「穏やかに」という意味もあり、1小節目にある dolce（甘く、愛らしく）の曲想表示の意味も考えると、速く演奏する曲ではないことがわかります。言葉の表現のニュアンスは1つではなく、たくさんあるので作曲者の意図していることを把握するためにも必ず辞書をひいて調べましょう。

スタッカート(・)とアクセント(>)記号は要注意！

E.ケーラーのエチュードOp.33ではテヌート(―)の記譜がありません。スタッカート(・)、アクセント(>)の記譜はテヌートの意味を含んでいます。スタッカートは「その音を短く」、アクセントは「その音を強く」といった固定観念を取り払って演奏解釈をする必要があります。

スタッカートの表す意味には①staccato（1つずつの音を短く切って演奏する）、②lenuto（音を保持して、その音の表わす長さを十分に保って演奏する）、③agogik（楽想に応ずる微妙な速度変化と間のとり方）の3つの意味があります。

アクセントの表す意味にも①sforzando（その音を特に強く）、②tenuto、③agogikの3つの意味があります。

1巻のエチュードにはたくさんのスタッカートが出てきます。裏拍についているスタッカートは①staccato、の意味とともに次の音につながる③agogikの意味があります。

基本を大切に！

一つ一つの音を大切に、呼吸、タンギングに注意しましょう。呼吸は口からではなく鼻からとるのが基本です。肺を100%活用し、深

い呼吸ができるように！山の頂上で大きな声で、「ヤッホー！」と叫ぶ時の喉の開きを考えてみてください。とても良い開きになっています。練習は丁寧にメトロノームをかけて、ゆっくりとしたテンポから始め、音の持つ意味をよく考えてみましょう。

最初の部分は8小節目のフレーズになっています。譜例①のように、メロディのイメージを作ってから練習してみるとよいでしょう。8小節目のC音は解決する音になりますから、スタッカートは②tenutoと考えよう。前のH音のスタッカートは導音ですから、より③agogikの意味があります。

37、41小節目等の跳躍は、MARCEL MOYSE 著 DE LA SONORITE の「アタックと音の連結」の項を参考に練習してみましょう（譜例②）。

44小節目のフェルマータは譜例③、()内の音のように倍に伸ばすとい

いでしょう。練習は、曲のイメージを思い描きながら行なってください。最初の部分は「子どもに語りかけるように」とか……、フレーズのつながりをどのように演奏するか……等、イメージトレーニングを行なってください。きっと新しい発見があるはずです。

譜例①

譜例②

一つずつの音をはっきりタンギングしましょう

響きに注意して次の音につなげましょう

シンコペーションを意識して、スラーの終わりの音が長くないように

譜例③

15 Easy Exercises

譜例① *Allegro moderato*

次の音につながるように

アボジャトゥーラ 解決音

アボジャトゥーラ 解決音

mf dolce → 1~29小節の1拍目まで2分音符の単位を意識して ($\frac{2}{2}$ ではない)

→ E-Dis-Eとつながりをもって大切に

フレーズの終止音、長めに 音程が高くないように響きに気をつけて

倚音、長めに

H音を次の小節につなげるように

f *mf*

音程に注意 → 長くならないように

タンギングをはっきりマルチアラートのように

音程に注意

mp *f*

軽くタンギング *allargando* *a tempo*

mp *mf*

意識して

f

→ 4分音符の単位を意識して

版によってはスラーが間違っているので直す

agogik改めて入りなおすつもりで

短く切りすぎないように

f オクターブのバランスを考えて → G音を最後のA・G音につなげるように

29小節の変形

譜例② オクターブのバランスを考え、上の音が強くなりすぎないように

短く切りすぎないように

譜例③

35・43小節はメロディを考え、アボジャトゥーラをはっきりと吹きましよう

H音は短く

シンコーションを意識してはっきりタンギング

スラーの終わりの音は短く

短く 音程に注意

45~49小節の 印C-DC-FE-AG-DCの旋律的メロディーを意識して